

## 第十章 施設・設備等

### 【到達目標】

歴史と伝統を現在に伝える赤レンガのシンボル棟（尋源館）を中心に、潤いあるキャンパス空間を確保し続け、安全で快適な学修環境を確保することを主たる目標とする。

そうした目標を実現するため、以下のような具体的な目標を掲げている。

- ①教育研究用施設・設備や情報処理機器の充実を図るとともに、老朽化した建物については計画的な改築をおこなう。
- ②幼児教育保育科においては、実習などの授業科目に対応した施設・設備の充実を図る。
- ③「学生のための生活の場」として、学生が自由に談話したり食事したりできる施設（学生談話室）の拡充をはたす。
- ③構内のバリアフリー化を年次計画で推進する。

### （施設・設備等の整備）

- ・短期大学・学科・専攻科等の教育研究目的を実現するための校地・校舎・施設・設備等諸条件の整備状況の適切性
- ・教育の用に供する情報関連施設と機器等の整備状況

### 【現状の説明】

校地は、京都市北区小山上総町の本部キャンパス 43,475.09 m<sup>2</sup>、滋賀県大津市の湖西キャンパス（グラウンド、セミナーハウス）36,874.49 m<sup>2</sup>、および学生寮などその他の校地 4,853.05 m<sup>2</sup>からなり、総面積 85,202.63 m<sup>2</sup>を本学と大谷大学（大学院を含む）で共用している。「短期大学設置基準」第 27 条、および付則による収容定員に基づく必要校地面積は、4,400 m<sup>2</sup>であるので、十分余裕のある校地面積を有しているといえる。

主たる校舎は、すべて本部キャンパスにあり、本学専用、大谷大学（大学院を含む）との共用を合わせた総面積は 49,311 m<sup>2</sup>である。「短期大学設置基準」の校舎面積、4,833.4 m<sup>2</sup>にたいしては十分満たしている。

本部キャンパスは 11 棟からなる。館名・校舎面積・竣工年は下表のとおりである。

館名	校舎面積	竣工年	備考
はくそうかん 博綜館	9,351.60 m <sup>2</sup>	1982	
じんげんかん 尋源館	1,157.62 m <sup>2</sup>	1913	1982 年改築
講堂棟	3,835.26 m <sup>2</sup>	1986	
こうりゅうかん 響流館	20,235.58 m <sup>2</sup>	2001	
1 号館	8,266.03 m <sup>2</sup>	1965	1990 年、1993 年一部増築
2 号館	3,338.53 m <sup>2</sup>	1978	2003 年一部増築
3 号館	1,162.88 m <sup>2</sup>	2000	
もんしつかん 聞思館	1,708.11 m <sup>2</sup>	1961	
しじょうかん 至誠館	3,690.90 m <sup>2</sup>	1961	2002 年改築

体育館	4,857.06 m <sup>2</sup>	2000	
部室棟	2,183.52 m <sup>2</sup>	2000	2005 年一部増築

表 10-1 校舎一覧

2号館には、本学の専用施設として、仏教科・文化学科・幼児教育保育科それぞれの一般研究室が設置されている。幼児教育保育科については、一般研究室のほかに音楽実習室、ピアノレッスン室、図工実習室、小児保健実習室、栄養実習室などの専用教室がある。

図書館と博物館は、大谷大学と共用であるため、利用可能である。博物館については、本学学生は無料で入館することができる。

1号館の一部、聞思館については老朽化してきているため、建替え、改修の計画時期に入っている。

設備面では、教育の用に供する情報処理機器が配備された情報処理教室、PC 設置教室は下表のとおりである。

館名	室名	PC 台数	備考
1号館	情報処理室 1	61	
	情報処理室 2	55	
	1313 教室	43	CALL システム対応
2号館	情報処理室 3	36	

表 10-2 PC 設置教室一覧

情報処理室 1・2・3 については、文化学科に「情報コース」があること、本学の旧カリキュラムに「情報リテラシー」科目（第 1 学年 2 単位必修）があったことから整備をおこなってきた。現在のカリキュラムでは、文化学科の「情報コース」の授業のほか、選択科目「メディア・リテラシー」の授業に使用している。学生の研究室にも自由使用できる PC が 5 台設置されている。なお、PC 設置教室の空き時間は自由使用が可能となっている。機器については年次計画を立て機器の更新もおこなっている。また情報コンセント設置教室・演習室が 27 室あり、必要に応じて PC 持込使用が可能になっている。プロジェクターなどによる教材の投影が可能な教室・演習室も 27 室ある。

教室以外では講堂、メディアホールにプロジェクターを設置している。700 人収容の講堂には 250 インチのスクリーンに投影が可能である。メディアホールは 148 席で、200 インチスクリーン 2 面を備え、高輝度の大型プロジェクターにより、PC・OHPS-VHS・DVD・TV などの投影が可能である。またマルチメディア演習室では、デジタルコンテンツを使った高度な演習や研究活動をおこなうことが可能になっている。

### 【点検・評価（長所と課題）】

施設については大半を大谷大学と共用利用しているため、校舎、設備、博物館や情報環境などの共同使用が可能で、また図書館の豊富な資料を利用できるなど、利点がある。しかし情報関連施設や機器などについては、今後も年次計画で整備する必要がある。

### 【将来の改善・改革に向けた方策】

校地、校舎、設備が大谷大学と共用であることにより、図書館、博物館、情報環境を利用できるなどのメリットを最大限活かし、高度な演習や研究活動が可能な、他の短期大学では実現できない内容の授業が実施できるよう、情報機器をはじめとする設備の充実・更新を、年次計画を立てて実施する。

### (キャンパス・アメニティ)

・キャンパス・アメニティの達成状況

### 【現状の説明】

より良い学生生活を支援するための環境整備に努めている。構内には、中央広場のサンクンガーデンを中心に、周りを取り囲むように講堂棟、教室棟、図書館、博物館、至誠館（学生支援部門の専用棟）が配置されている。都市のなかにあつて、キャンパスをクスノキ、サクラ、ケヤキ、ヒマラヤ杉などの大木が取り囲み、木々の緑が授業の合間の学生の目を休めてくれる。また、構内には適度にベンチが配置され、サツキやツツジ、サザンカの低木が季節を感じさせてくれる。大学建物内は禁煙とされ、構内の指定された場所のみでの喫煙とし、喫煙者と非喫煙者、それぞれが快適に学生生活を送れるよう配慮している。また、年間のうち定期的に学生会と大学が協力して、タバコのポイ捨て禁止などのマナーキャンペーンを実施している。車での通学は禁止されているので、自転車・バイクの通学生に十分な駐輪場を確保している。

事務局については響流館建築にともなうキャンパス整備のなかで、学生支援部門の事務所を1箇所を集約し、ワンストップサービスが可能となっている。

昼休み時間帯の学内食堂の混雑緩和についての要求が数年来あった（たとえば、満足度アンケートにおける「座席数は学生数に対して十分である」項目にたいする満足度は14.7ポイント）が、2006年秋、学生談話室1（Big Valley）をオープンデッキのカフェテリア形式（Big Valley Cafe）に改修し、座席数を70席から120席に増やすとともにメニューを一新したことにより利用が分散され、昼休み時間帯の学内食堂の混雑も緩和した。

### 【点検・評価（長所と課題）】

2001年の響流館竣工に合わせてキャンパス整備がおこなわれ、事務局の再編・統合により空室となった事務室を学生のためのスペース、施設として有効利用してきた。学内食堂の座席数については、学生談話室1（Big Valley）の改修をおこなった。

また、満足度アンケートその他の項目では、次のような結果となっている。満足度の高い項目として「キャンパス内の美化が行き届いている」「通学のための交通の便がよい」「キャンパス周辺は学生生活を送るのに便利である」「キャンパス周辺は学生生活を送るのに安全である」がある。逆に満足度の低い項目として「キャンパスは適度な広さである」があげられる。満足度の低い項目の改善が課題となる。

### 【将来の改善・改革に向けた方策】

キャンパス内での喫煙マナーについては、マナーキャンペーンの回数を増やすだけでなく、キャンペーン以外でもマナー違反者を許さない、注意する意識づくりをおこなうべく情宣ポスターを作成す

る。「キャンパスの狭さについては、大谷大学の総合研究室に比べた場合、短期大学の一般研究室は狭いという意味内容の不满と思われるが、具体的な改善要望を精査したうえで対応する。

#### (利用上の配慮)

- ・各施設・設備の利便性への配慮の状況
- ・施設・設備面におけるバリアフリーの形成状況

#### 【現状の説明】

本学は立地条件に恵まれ、京都市営地下鉄北大路駅・北大路バスターミナルが最寄りにある。2001年には、駅・バスターミナル連絡通路出口横に本学の北門入口が設置され、通学の便はさらに向上した。

本部キャンパスの校舎、11棟のうち9棟にエレベーターを設置している。エレベーターのない2棟のうち1棟（尋源館）には隣接する建物（エレベーター設置）からの渡り廊下で車椅子の移動が可能となるように対応した措置が施されている。また、点字ブロックの敷設、点字案内板の設置、室名表示に点字表記をつけるなど、視覚障害者対応や、各所に手すり、スロープを設置するなどのバリアフリー化の取り組みもおこなっている。

その他は、体育館には障害者用シャワー室、各建物には障害者用トイレを設置し、そのうち1箇所には電動昇降便座を設置している。

#### 【点検・評価（長所と課題）】

利用上の配慮としては、施設・設備面において障害者にたいしては、構内のバリアフリー化を年次計画で推し進め、最低限の整備をおこなった。

#### 【将来の改善・改革に向けた方策】

エレベーターの設置されていない聞思館には教室はないが、教員の個人研究室があり、他の校舎と変わらず学生にとって重要な校舎である。聞思館については、前述のように老朽化してきているため、建替え、改修計画の策定および改修の実施を急ぐ。バリアフリー化は新入生として受け入れた障害者に対応する面からの整備が主であったが、今後は生涯学習社会に対応するという観点から高齢者をも視野に入れ、大谷大学を訪れるすべての人に優しい施設、設備の整備をめざす。また、本学として対応する基準（国などの基準を上回る）を決め、整備完成目標を立て取り組む。

施設の利用時間については、学生の要望とその効果を比較検討し、実現可能なことから取り組む。

#### (組織・管理体制)

- ・施設・設備等の維持・管理や、衛生・安全・防犯・防災に関する責任体制の確立とシステムの整備状況

#### 【現状の説明】

施設・設備の管理は、総務部、教育研究支援部が建物、備品、用品、情報関連設備の適切な維持・

管理をおこなっている。機械設備・電気設備・上下水設備・昇降設備などの維持管理は総務部の責任でおこなっており、情報関係設備は管理業務については総務課が、教育・研究部門については教育研究支援部教育研究支援課がそれぞれおこなっている。これらの維持・管理の多くは外部業者と委託契約を結び実施している。

衛生面に関して、水については市の水道水と一部井戸水を利用している。井戸水はトイレ洗浄専用に利用されている。水道水は入水槽の年1回の定期的な清掃と水質検査を実施し、衛生確保に努めている。また教室・廊下・トイレ・建物内外の清掃は、委託業者によりおこなっている。

キャンパス内の安全確保については、委託業者により24時間体制で夜間警備、巡回業務をおこなっている。幼児教育保育科のピアノレッスン室(個室)、女子トイレには防犯ブザーが設置されている。また、本部キャンパスは幹線道路である烏丸通を挟んで東西にキャンパスが分かれているので、東西キャンパス間の安全な移動やバイク駐輪場の出入りの安全確保のため、係員を配置している。

防火、防災については、守衛所に防災設備管理基板を設置している。また、防火管理委員会の下、自衛消防隊を組織し定期的に消防訓練をおこなっている。

その他、情報系では、学術情報本部委員会が学内の教員系・学生系ネットワーク(OUNET)について「OUNET利用指針」を作成し、指針に沿って適正な利用を指導している。

#### 【点検・評価（長所と課題）】

施設・設備の管理については、内容により担当部署を決め、担当部署から委託先責任者・派遣先などへの連絡体制を確立している。施設・設備のメンテナンス・清掃管理については、十分な把握ができるよう、検討の必要がある。

#### 【将来の改善・改革に向けた方策】

施設・設備のメンテナンス、清掃については今後アウトソーシングが主流となるものと思われるが、担当部署で状況が把握できるよう体制を整備する。